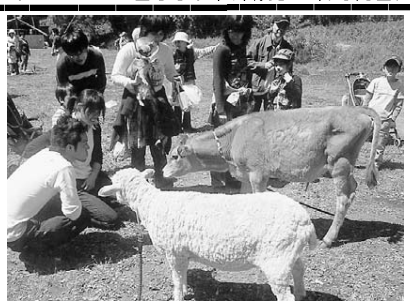
新緑の自然と小動物

GWの中央公園にぎわう

鎌倉市山崎の鎌倉中央公園で4月29日、「わくわく谷戸まつり」があり、家族連れなどでにぎわった。



花フェスタ」、30日「春の市民などから提供された約250匹のこいのぼりが青空を舞い、芝生の中に富士塚小5年生が富士山を模してつくった花のオブジェも彩りをそえた。

市公園協会主催の第7回花フェスタは、昨年、山崎小のヤギが人気を呼んだのをうけて、今回、広場に18種80匹の「ミニ動物園」ができた=写真。40平方㍍ほどの囲いの中でウサギ、モルモット、ハツカネズミ、ヒヨコ、七面鳥、コブタなどにふれた。ポニーに乗って手綱を引いてもらう子どもたちも順番待ち。公園でとれたマツボックリや小枝でシカやブタをつくる木工教室、園芸相談なども好評だった。

福祉施設などの模擬店では焼きとりやフランクフルト、かき氷、手芸品などが販売された。

谷戸まつりは、「鎌倉中央公園を育てる市民の会」の会員らが、有機無農薬で育てた作物を用いた炊き出し、サトイモやネギなどを自家製味噌で煮込んだ「谷戸鍋」、タケノコご飯、餅などが販売された。

公園には、昨年より3千人以上多い1万2千3百人がゴールデンウィーク中同訪れた。

天王唄に合わせ中学生神輿担ぎ

材木座ゆかりの第一中生が挑戦

「伊勢の鳥羽から朝山まいて〜アーラヨイ」―拡声器を通して流れる鎌倉天王唄。年季の入った歌声に合わせるように、烏帽子に白の衣を着た白張姿の中学生の担ぐ神輿が、校庭にお目見えした=写真。

鎌倉市材木座の第一中学（岡田厚校長・生徒159人）は体育祭の5月12日、地元ゆかりの天王唄にあわせ神輿担ぎをした。

この唄は約7百年以上もの昔、和賀江の港から鎌倉の社寺建設の用材を運ぶ時に歌われたと伝えられている。

独特のさびのある節回しは難しく、後継者が心配されている。そこで地元中学生が唄を聞き、理解に役立てばと保存会（機部俊雅会長）の人たちが協力、中学3年生20人が、体育祭の昼休みに、地元の子ども用の神輿担ぎに挑戦した。

女生徒5人も入り、白張姿で担いだ生徒たちは「重たかったけど楽しかった。唄がいい」と汗をぬぐっていた。

烏帽子に狩衣姿の装束で、奉行や射手などを分担して披露した。

「草鹿」で子供の成長祈願

小笠原流保存会が鎌倉宮に奉納

長崎住職の話だと自生したのが成長したという。樹齢20年くらい。5〜6㍍の高さから枝を広げ沢山の花をつけた。例年よりの花序も大きく、きれいで見応えは十分。

この寺の裏山にもフジが点在する。鎌倉の山野には自生のヤマフジが多い。ヤマザクラの後を受けて、新緑の木の間から紫色の花が彩りを添える。遠くから見ると宝石アメジストのシャンデリアが輝いているようで、自然のすばらしさを伝えてくれる。

鎌倉時代、源頼朝が家臣の弓術上達法として、草を束ねて作った鹿を射って、稽古させたのにちなむ儀式で、保存会の人たち26人が鹿革を使ったぬいぐるみ。5人ずつ二手に別れた射手が、つるした鹿の的目がけて順に矢を放つ。鹿には24個の白い星があり、的中した部位や所作によって勝負を競う。

1981年から端午の節句に行っている。射手には女性3人もいた。勝ち組には「尚武」と音が同じ、ハナショウブが神職から贈られた。一時、遠い昔の悠久の世界にひたった。

鏑矢がブーンと音を立てて18㍍離れた先の小鹿目がけて飛んでいく。的中すると周りを囲んだ観光客らから拍手や歓声が起きる。

端午の節句の5月5日、子どもの健やかな成長を祈願して、小笠原流の鎌倉古式弓道保存会（有井弘臣会長）が、古式にのっとって「草鹿」の儀式を鎌倉宮に奉納した=写真。

ひと

老舗の酒店をギャラリーにした

竹腰吉晃（たけこしよしあき）さん

飛騨高山の民家を思わせる、二階に出格子のある2つしゃとした建物。室内は漆喰の白壁や障子、箱階段などが落ち着いた雰囲気を醸し出している。

80年続いた酒販店を閉じて、この春、「ギャラリーAKI」を始めたのは当主の竹腰吉晃さん。

「祖父が大正の終わりころに下馬の近くで酒屋を始め、ここに移ったのは昭和の初め。僕が小学校に入る前に父が亡くなり、母が店を切り盛りしていた。商人の子は商人になるのが当たり前だったから、子どものころから店の手伝いをした」

鎌倉には生活に密着した個人商店がまだ多く残っている。それでも姿を消す店が年々増え、さみしい思いにとらわれる。酒店に限っていえば、周辺に大型の安売り店ができて、個人商店は品揃えで大きな資本に太刀打ちできなくなっている。

竹腰さんも年くらい前から、地域の個人商店としての酒屋の役割は終わった、やめなければならない時が近いうちに来ると感じとっていた。

20年前に建てて替えた和風の家のたたずまい、広い店舗スペースを活かしてできることはないかと思案した。

ギャラリーはどうかと提案したのは、長女で日本画を描いている桃子さん。竹腰さんも数年前から木製のペンダントを作ったり、古い木製家具の再生を手がけていたので、そのアトリエもできるではないかと。

3月のオープニング展の第一弾は父・真一さんの写真展。真一さんは、戦後すぐ、鎌倉カメラグループに属し、腕はセミプロ級だった。戦後の町並や人物を写した貴重な写真が残っていた。第二弾は、叔父さんの「竹腰いうちに来る長生陶芸展」。第三弾は、春をテーマに桃子さんの絵と、長男で音楽家の甲生さん作曲の音楽とのコラボレーションで、これは今後、季節ごとにやっていきたいという。

これまで大町八雲みこし会、消防第28分団の団員として活動し、また大町商店会の役員も長くつとめてきた。

ギャラリーをどうやっていけばよいか、まだ見えない部分もあるが、オープニング展には7百人余が来てくれた。若い人にも気軽に使ってもらい、地域の交流の場にもなるギャラリーにしたいというのが竹腰さんの願いだ。

5人家族。52歳。場所は鎌倉女学院の裏手、滑川に架かる「えんま橋」近く。☎0467・22・0330　（J）

山野に彩り添えたフジ

大町・別願寺のフジ人気呼ぶ

5月初旬まで楽しませた=写真。

いくつもの薄紫の花が垂れ下がり、通りがかりの人たちも立ち止まって眺めて行く。鎌倉市大町の時宗別願寺（長崎育住職）の山門近くのフジが、例年より1週間ほど早い4月中旬から咲きだし、

1週間ほどの開花が、例年よりの花序も大きく、きれいで見応えは十分。

足・靴の悩み無料相談
大船ロビンフット靴店
靴が合わない、歩くと足が痛いという人は、「大船ロビンフット靴店」へ。無料足診断で、足を計測し、足の形状や健康状態を“カルテ”にして、ぴったりの靴を選んでくれます。
また、中敷きの製作や、靴の加工で、足と靴の悩みに応えてくれます。
こんな悩みはぜひ相談を
外反母趾、扁平足、タコ、ウオノメ、巻爪、ハンマートゥ、膝関節症、股関節症、腰痛、リウマチ・糖尿病・麻痺で履く靴がない。子どもがよく転ぶ。歩き方がおかしい。
婦人靴・紳士靴・子供靴と品揃えは豊富
営業時間／10時〜19時
定休日／なし
大船駅東口徒歩3分
☎0467(42)6322
無料足診断券
“足のカルテ”プレゼント
ご利用時に掲示してください。
大船ロビンフット靴店
フォトスタジオ　スリーエフ　大船ロビンフット靴店　ゲームセンター　交番　ドラッグストア　マクドナルド　至横浜　大船駅　至藤沢

CHINESE-RESTAURANT
大切にします……「心」からのおもてなし。
中国料理　華正楼（かせいろう）
●鎌倉店／鎌倉長谷大仏前　☎0467(22)0280㈹　●横浜中華街／本店　☎045(681)2918㈹　新館　☎045(661)0661㈹

展示即売会場
2F貸画廊(75㎡)
3F貸教室
ギャラリー島森
●予約申込み・問合せ　☎0467(24)3160　島森商事㈱

本を通じ、皆様のお役に立ちたいと願っています。
雑誌・書籍・文具・事務用品・ファンシー
鎌倉駅東口前　☎0467-22-0266
大船駅東口前　☎0467-46-3841
東逗子マルエツ店内　☎046-871-0590
島森書店

―食べて　健康―
健康促進　ピロール玄米　始めました
古代赤米、国産大豆・小豆入りです
ご注文はこちら　オーバニー
☎0120-22-0821
材木座海岸そば
手づくり弁当　バニー

八幡宮前・蒲焼専門店
うなぎ　茅木家
☎(22)1460

芋川耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科・アレルギー科・補聴器相談
TEL　0467-24-7273
駅東口徒歩2分　小町通り　壱番館ビル3F